

「安息日（あんそくにち）を憶（おぼ）えて これを清潔（きよく）すべし」

「安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。」（出エジプト記 20:8～11）

「安息日」とは、「やめる、絶やす、安息する」という動詞から来た言葉です。安息日は、その日を他の日と区別して、すべての仕事を止めて休む日です。清潔（きよく）すべし、とは聖別するという事です。日常の労働から解放され、休む日ですが、本人だけではなく、家族、奴隷、家畜、寄留する人々まで及ぶ安息です。

なぜならば、神様が六日の間に天地をお造りになり、七日目に休まれたからです。私たちにとって安息日はこの世のすべてをお造りになり、特に私たちを造ってくださった、その創造の御業を憶えて讃美する日です。

そして、申命記 5:14,15 を見ると「七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる。あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。」と書かれています。つまり、エジプトにおける奴隷の状態から導き出してくださった神様の救いを思い起こし、休むだけではなく、安息日を守るように命じられています。安息日は人間が造ったものではありません。神様ご自身が定め、人間を祝福するために守るよう命じておられたのが安息日です。

私たちキリスト者は主イエス・キリストの復活を記念する日を安息日としています。土曜日であった安息日は主が復活なさった日曜日に代わりました。それは旧約の安息日を否定するのではなく、より積極的に神様の救いの完成を憶える日となったのです。

安息日、つまり主の日は独り子イエスをお送りくださった神様の愛と、私たちの罪のゆえ十字架に付けられて死に、そして三日目に復活なさった、主イエス・キリストの贖いの恵みを憶える日です。その主の日を憶え、守ることが礼拝です。礼拝は神様によって造られて救われた者が、神様に守られ、祝福の内に生き続けるための居場所です。ですから、礼拝は私たちにとって、生きるか、死ぬかの問題がかかっていることを心に留めておくべきです。

*共に祈りましょう。

- ・安息日（主の日）を与えてくださった神様に感謝しましょう。
- ・安息日（主の日）を聖別して、礼拝を守り続けることができるように主の御導きを祈りましょう。
- ・安息日（主の日）の恵みが私だけではなく、家族、隣人にも及びますように祈りましょう。